

【No. 1】 薬局・薬店(店舗販売業)・ドラッグストアに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 薬局の調剤室面積(内法面積)は6.6㎡以上でなければならない
2. ドラッグストアはすべて薬店(店舗販売業)に分類される
3. レイアウトは医薬品部門、化粧品部門、日用雑貨部門などで構成される
4. セルフ売り場に設ける第一類医薬品を販売する陳列棚は鍵付きとしなければならない

答. 2

---

【No. 2】 生活雑貨店に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 生活の多様化と共にいろいろな業態に進化している
2. 多様な商品を扱うのでディスプレイは重要である
3. 営業の目的がその企業、地域によって定型化されていく業態である
4. 商品を全店一括ではなく、各店の販売スタッフが仕入れを担当するシステムを仕入販売員制度という

答. 3

---

【No. 3】 寿司屋のカウンターに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 寿司はカウンターで握られるが、煮物、吸い物等の料理は別の厨房で作られることが多い
2. テーブル席や個室がある場合は、カウンターで握った寿司を運ばなければいけないのでカウンターで食べる客スペースの間を必ず空けておく
3. カウンターは厨房のほんの一部であり、握りカウンターは握る姿を見せる演出厨房でもある
4. 配膳部分のカウンターは、客の邪魔にならないように考えなければならないが、動線が複雑になるため、客動線と従業員動線が重ならないように計画する

答. 2

【No. 4】和食店に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 和食店に限らずオペレーションのあり方でゾーニングが決まってくる
2. 規模が大きい店であれば、従業員の動きは役割分担によって決まるので、ゾーンを分けず重複しないようにする
3. 小さな店は従業員の役割が重複し、面積も限りあることからゾーンが複雑になる店が多い
4. 比較的小さな和食店では、カウンターを中心としたオペレーションを採用することが多いが、どうしても動線が重複してしまう

答. 2

---

【No. 5】焼肉屋の設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 上引きフードは目の前にフードがきて会話に支障があるため、下引きコンロの脇から排気する方法が多い
2. 料理の味のことを考慮すると、客からしてみると邪魔であるが、肉を煙で燻して焼く上引きフードが望ましい
3. 厨房用の排気ファンに客席コンロ用ファンが加わるので、排気ファンは大型の一体ものを設置する
4. 通常レストランの空調容量は  $370\text{w}/\text{m}^2$  であるが、焼肉店では  $500\text{w}/\text{m}^2$  が必要である

答. 3

---

【No. 6】次の各種施設と関連法規の組み合わせのうち、最も不適当なものはどれか。

1. フィットネスクラブ …………… 公衆浴場法
2. シネマコンプレックス …………… 興業場法
3. クラブ、ディスコ …………… 酒税法
4. パチンコ、スロット店 …………… 風営法

---

**【No. 7】** これからの百貨店づくりに関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 立地も重要な要素であるがすべてではない
2. 顧客の期待に応えることである
3. 情報や楽しさよりも高級感が大切である
4. 流行や時代を先取りした提案をすることである

---

**【No. 8】** わが国のショッピングセンターの定義(1993年規定)に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 小売店の店舗面積は 1,500 m<sup>2</sup>以上であること
2. キーテナントを除くテナント数が少なくとも 20 店舗以上含まれていること
3. キーテナントがある場合、その面積がショッピングセンター全体の 80%程度を超えないこと (その他テナントのうち小売業の店舗面積が 1,500 m<sup>2</sup>以上である場合はこの限りではない)
4. テナント会(商店会)等があり、広告宣伝、共同催事等の共同活動を行っていること

---

**【No. 9】** さまざまな商業のかたちに関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 「ゼネラル・マーチャンダイズストア」(GMS)といわれている業態はアメリカから誕生したものである
2. 「ゼネラル・マーチャンダイズストア」(GMS)は、わが国では衣・食・住に関連した商品を総合的に扱う大型スーパー業態である
3. 「スーパーマーケット」(SM)は、食品を中心した品揃えであるが、それに加え、日常衣料・

雑貨、医療品などを揃えた業態が「スーパー・スーパーマーケット」(SSM)である

4. 「カテゴリーキラー」とは、「ゼネラル・マーチャンダイズストア」(GMS)のような大型店舗が、地域において小規模小売店舗を脅かすものをさす

答. 4

---

**【No.10】** マーケティングやライフスタイル等の変化により、新しいさまざまな業態が誕生してきている。

次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. 「ライフスタイルショップ」とは、一つのメーカーや企業がそのブランドの商品だけではなく、その他の商品や業態をトータルな概念でライフスタイルを提案する店舗である
2. 「ライフスタイルショップ」とは、複数のブランドやアイテムを経営者独自の感性や嗜好から品揃えした店舗のことである
3. 話題の「企業ミュージアム」とは、「企業メセナ」の文化性や芸術性を行う企業姿勢と全く違う考え方である
4. 「企業ミュージアム」の代表的なものとして、日清食品の『カップヌードルミュージアム』(神奈川・横浜)やキューピーマヨネーズの『マヨテラス』(東京・調布)などがある

答. 2

---

**【No.11】** ビジュアルマーチャンダイジングに関する次の記述のうち、**最も不適當なもの**はどれか。

1. 企業理念に基づいている
2. 企業の側に立った組織的な活動である
3. 売り上げの向上を目的とした企業戦略である
4. 視覚的効果を重視した活動である

答. 2

---

【No.12】 マーチャндаイズプレゼンテーションに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 一般にMPと略して使われている
2. VMDの考えに基づき展開される
3. 商品の表現方法として「置く」「たたむ」「掛ける」などがある
4. 商品量を多くして売り上げを上げることが大切である

答. 4

---

【No.13】 物品販売店の効率に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 売場販売の3効率とは、①坪あたり売上高×売場面積、②坪あたり在庫高×売場面積×商品回転率、③従業員1人あたり売上高×従業員数である
2. 坪売上高等の設定により、その売上看見合う施設投資額が設定され、商品にあった店舗グレードが設定される
3. 坪あたり在庫高により商品在庫量が決まり、倉庫スペースが決まる
4. 最も販売効率を高めるためには商品回転率と商品在庫高の調整を適切に行う必要がある

答. 3

---

【No.14】 大規模小売店の開発に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 基本構想段階では、市場調査等の成立性調査、基本コンセプト等のプランニング等と商環境計画のコンセプト等が策定される
2. 実施計画初期の基本設計時では、事業推進計画を中心に、基本的な業種業態構成やテナント契約図までの検討を行い、また、商環境デザイン計画が始まる
3. 基本設計時のあと、テナントミックス計画やテナント賃貸契約など事業に直接関係の深い事柄を策定する
4. 実施計画の最終段階では、テナント導入に伴う収支計画等の見直しと、テナントの店舗デザイン策定を行う

答. 4

【No.15】大規模小売店舗に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 大規模小売店舗とは、大規模小売店舗立地法に定められた営業面積 2,000 m<sup>2</sup>以上の店舗のことである
2. 大まかな業態分類として、大型専門店、専門大店、百貨店、GMS、SM、GMS・SM核のSC、複合型商業施設等に分けられる
3. 大規模小売店舗の中で、百貨店やGMSなど総合型小売業は売上規模が縮小しており、百貨店などは売上規模が最高 12 兆円だったものが 6 兆円規模に落ち込んでいる
4. 大規模小売店舗の規模として、各業態毎に適正面積があり、ハンズやロフトのような雑貨型業態では 5,000～7,000 m<sup>2</sup>ほどとなっている

答. 1